

万行寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1-1
電話 0267-67-2460

2024(令和6)年

仏暦2567年

8月号

(第155号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホツがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



住職 法話

こうだいしょうげ 廣大勝解のひととのたまへり

正信念仏偈に学ぶ
仏言広大勝解者
是人名分陀利華
仏、廣大勝解のひととの
たまへり。この人を分陀利
華と名づく。

「現代語訳」
仏はこの人をすくれた智
慧を得たものであるとた
え、汚れない白い蓮の花
のような人とおほめにな
る。

前の二句に続く「諸仏称讚の益」になります。このところを、正信念仏偈を意訳して読まれる「しんじんのうた」には、ほとけの誓い信ずればいとおろかなるものとてもすぐれし人とほめたまい白蓮華とぞたたえまますと訳されています。分陀利華は白蓮華のことで、最も高貴で花の王ともいわれています。また、分陀利華は『仏説観

無量寿経』というお経のもし念仏する者は、まさに知るべし、この人はこれ人中の分陀利華なり

に依るもので、「もし念仏するものがいるなら、まことにその人は白く清らかな蓮の花とたたえられる尊い人であると知るがよい。」と現代語訳されます。

仏教といえば蓮の花を思い浮かべる方もおられるでしょう。泥の中に生えながらも、美しい花を咲かせ、花が泥に塗れないことから、煩惱の泥から解き放たれさとりを得る姿にたとえられています。

ところで、この「諸仏称讚の益」は、仏に褒め讃えられご利益ですが、子や部下に對して「褒めて育てる」という手法が話題になりました。前向きになって自信につながったりと良い面もあります。が、バランスを考えないと逆効果になってしまうデメリットもあると言われ、なかなか難しいようです。「諸仏称讚の益」は、さとりを得た真なる仏さまか

ら褒め讃えられるから有難いのです。人に褒められるというのは一時的なものであつて、持続することは大変なのもかもしれません。

ここで、信心を得た人を「廣大勝解のひと」と言われます。私は、ここまで、繰り返し阿弥陀仏の本願に出遇えたよろこびを述べてきた過程で、仏さまに申し訳ない思いや恥ずかしい自分を隠すことなど出来ませんでした。僧侶である私も、申し訳ないことばかり繰り返してききました。泥まみれで「申し訳ない」思いの先に、美しい花を咲かせられる「廣大勝解のひと」になれる生き方をしたいものです。

信心を得て恵まれる五つのご利益が終わりますが、次の四句は本願を信ずることは「難中の難」と言われるところ。信じなさいと言われるのに難しいと言われるのです。厄介なことです…。



浄土真宗
新 仏事のイロハ

四、法要・行事

― 仏縁を深めよう ―

「お盆の時期」

「ご先祖はもうあの世へ帰った」?

毎年、八月のお盆時期になると門徒宅への「お盆参り」を頼まれ、忙しい毎日を送ることになります。最近では、八月十日前後の土・日あたりから十五日にかけて、依頼される軒数が多くなりますが、お寺によつては一日に数十軒も回らなければならぬところもあるとかで、ご門徒が要望する日時を調整するのは大変です。

そんなお盆参りで、ある年の八月十六日、こんな出来事がありました。普段めつたにお参りしないお宅でしたが、夕方、汗を拭きながら駆けつけたところ、おばあさんが出てきて、いきなり「今ごろ来

て！ 遅いですやろ。ご先祖、もうあの世へ帰ってしまいはりましたがな…」と言われたのです。待ちくたびれたこともあつてか、いかにも不満そうです。

それを聞いて、私も疲れが一気に加速してしまいました。が、そこは抑えて「先祖が帰ったと、誰がそんなこと言いはつたの？」と尋ねると、「そうかて」十三日に戻つてきて、十六日にはまたあの世へ帰る」と言うやおまへんか！」と、おばあさん。

「それはね、先祖への感謝と、仏法を聞くことの大切さを忘れないように、先人たちがそういう言い方で私たちに伝えてくれはつたんですよ。何も

先祖が一年に三、四日だけ私たちのところへ戻ってくるわけではないんですよ。実際、おばあちゃんの心の中にはいつもいてはるやろ。」

こう言うと、おばあさんも少しは気が収まったようで、私の話に耳を傾けてくれました。

お盆と言えば、いわゆる先祖供養と考え、しかも、「特定の先祖のために」供養するもののように思われがちです。しかし、特定の先祖を追慕するにしても、そのお心を仰げば仰ぐほど、数限りない先祖によつてこの私のいのちが恵まれたことを喜び、仏法を依りどころに力強い人生を歩むことの大切さを思い知らされます。

したがって「先祖のために供養する」というのではなく、ましてや、先祖が戻ってくる「日」を特に気にすることはありません。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より



年忌法要表

1 周忌	2023 (令和 5) 年	23 回忌	2002 (平成 14) 年
3 回忌	2022 (令和 4) 年	25 回忌	2000 (平成 12) 年
7 回忌	2018 (平成 30) 年	27 回忌	1998 (平成 10) 年
13 回忌	2012 (平成 24) 年	33 回忌	1992 (平成 4) 年
17 回忌	2008 (平成 20) 年	50 回忌	1975 (昭和 50) 年

編集後記

気象状況の変化とともに生活が様変わりしています。◆例年になく暑い夏が続いています。◆命に係る暑さとも言われ、お盆参りに行つても、どのお宅もエアコンが当たり前の時代になりました。◆雨の降り方も災害級で半端ないです。浸水が当たり前になっていて、どうなるのでしょうか。◆備えることが増えます。